

平成16年度 土砂災害防止に関する 絵画・ポスター・作文の受賞作品

土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害から人命、財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、全国各地で土砂災害防止に関する種々の行事を行っています。

絵画・ポスター・作文の募集は、土砂災害防止月間の行事の一環として、明日の日本を担う小・中学生の皆さんに、土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくために毎年実施しているもので、今年度は県内で合計113点の応募がありました。

その中から、地方審査で優秀な作品を中央審査に推薦したところ、本県より2名の方が入選されました。

ポスター（小学生）の部	国土交通省砂防部長賞	後藤 美郷さん （温海町立山戸小学校6年）
作文（小学生）の部	国土交通省砂防部長賞	高山 藍さん （酒田市立十坂小学校6年）

ポスター（小学生）の部 国土交通省砂防部長賞

題名：「大切だ日頃の備えと早めの避難」

作者：後藤 美郷さん（温海町立山戸小学校6年）



作文（小学生）の部 国土交通省砂防部長賞

題名：「はじめての豪雨」

作者：高山 藍さん（酒田市立十坂小学校6年）

七月十七日午前十時ごろにお父さんの電話が鳴りました。国土交通省からです。先日から降り続いた大雨のため、川の水位が上がって、その水位を見に行くためです。家のお父さんは、川の水位を見る水門員をしています。ふだんは、別のお仕事をしていますが、川の水が多くなると水位が下がるまで、川の水を見えています。お父さんが見に行く川は、京田川でとなりには、山形を横断する最上川が流れています。

その日は、新潟、福島は大きな豪雨となり、山形でも三十年ぶりの大雨になったそうです。新潟では、死者十四名を出す、大きな豪雨災害となり、山形でも負傷者が出ました。

そして雨は、少しずつ小降りになりましたが、こんどは、土砂災害の危険が高くなりました。家屋のとうかいや床下、床上しんすいにみまわれた家屋が百四戸以上になりました。

「藍、川見い行くが。」

とお父さんが言うので、一緒に付いて行きました。そして川を見ると、いつもとは、全然ちがうものとなっていました。色はとってもこい茶色で、流れは速くて、荒々しく、私は、とても怖くなりました。今居るこの道路も全て川になってしまうように思いました。「ほら、あそごさいっだなためきだそ。」

と、お父さんが言うので、見てみるとためきの親子でした。やぶが水びたしになり、居場所を失い水の無い所を探して、町まで出て来てしまっていたようです。

「ほら、そっちにはうさぎだ。」

ふだん見たらかわいいなあ、と思うのですが、かわいそうにこれからどうするのか心配でした。

十七日、十八日の豪雨のため水門員だけでなく、地区の消防団が水防団となり、公民館で一晩中ねとまりし、巡回し、待機して地区を守るためにがんばってくれたことを知りました。地域のみんなで自分達の町を守っている事に感謝しているし、自分達の町を自分達が守るというすばらしさを教えられました。ふだんから、災害が起きた時の事を、家族はもちろん、地区の人、話し合うべきだと思います。家族がバラバラになったときの集合場所や、連絡方法、地域の人からは、どのようにして、連絡が入るのか、連絡をつけたらすぐに大人のしじにしたがう事や、非難する時には、何が必要か、我が家は、非難したこともなければ、非難セットも用意していません。もう少し、真剣に考えなくては、いけないと思います。災害がおきてから考えるのではなく、おきる前に考えておくべきことがたくさんあるのではないかと思います。自然災害は、さけることは出来ませんが、そのことで大切な家族や友達をうしなう事はふせぐことは出来るはずだと思います。

昨日、また、京田川を見に行きました。あの大雨がうそのようにおだやかで、川はいつものように、雄大に流れていました。この光景がいつまでも、おだやかに流れる川であってほしいと心から思います。

このページの内容の問い合わせ先は
山形県土木部河川砂防課砂防室 TEL 023-630-2635